

東南アジア諸国連合（ASEAN）の加盟国内を流れるメコン河流域で、アジア開発銀行（ADB）主導で進む「大メコン圏経済協力プログラム」に基づき、大メコン圏（GMS）Greater Mekong Subregion）経済回廊の整備が1992年から始まって28年がたつ。

GMS経済回廊の整備が進んでいることを示すかのようになっている。2000年から直近までのASEAN域内貿易額は約3・3・5倍増加しており、国内総生産（GDP）をはじめ、他の経済指標を含めて軒並み高い水準で推移している。

PC橋梁を得意とし、これまで国内外で4500橋以上を施工してきた当社はGMSでも交通網整備の一役を担い、域内の経済発展に寄与してきた。東西経済回廊の要であるタイ・ラオ

海外建設協会

プロジェクト便り

◆ASEAN各国

GMS経済回廊整備

三井住友建設

大メコン圏に架ける橋で人々つながる

ス国境の第2メコン橋（第2タイ・ラオス友好橋）を06年に完成したのをはじめ、きずな橋（カンボジア・プノンペン）、ニャッタン橋（ベトナム・ハノイ）、ラックフェン新国際港建設事業（ベトナム・ハイフォン）など、数多くの橋梁をASEAN

N地域で施工し、経済回廊の整備に貢献してきた。

カンボジアではメコン川に架かる2・2キロの斜張橋、つばさ橋（ネアックルン橋）が15年に開通した。これまでメコン川を数時間かけて渡船していた物流や人の流れがこの橋の完成で数分に短縮された。これにより、バンコクからプノンペンを経由しホーチミンまで延びる約900キロの南部経済回廊がつながった。

ベトナム・ラックフェン新国際港建設事業ではハノイ・ハイフォンをラックフェン新国際港と結ぶ総延長約15・6キロの橋梁・



メコン川に架かるネアックルン橋（つばさ橋）



GMS回廊の整備路線
●三井住友建設が施工した橋梁

高度な技術で地域貢献

ラックフェン新国際港に架かる橋



道路工事を17年に完成させた。当社は総延長のうち、5・4キロに及ぶ橋梁を急速施工し、海上架設の約4・4キロ区間は13カ月で完成させた。

ベトナムで初となるPC箱桁PCa（プレキャスト）橋であり、世界的にも最大級となる支間長60メートルをスパンバイスパン架設工法で施工。その基礎にはベトナムでは初となるネガティブフリクション対策鋼管杭、ベトナムで2例目となる鋼管矢板井筒基礎など、高度な技術を数多く

く用いた。

本案件はベトナム企業2社とのJVで施工し、当社の施工した工区でも約1000人ものベトナム人技術者を配置。海外経験豊かな20人の日本人をリーダーに、ベトナム人の建設技術や組織管理育成にも取り組んだ。

現在、新型コロナウイルスの流行で世界的に経済は停滞を余儀なくされているが、建設業については施工が中断し待機者が出たり、作業員同士の間隔を大きく取り効率が低い施工を強いられたりしている。

だがそのような環境でもリモート技術を進化させ安全な施工・監理を行う仕組みが発展しつつあり、コロナ禍でも次なる経済発展への貢献に向け当社は前進している。

当社はこれからも政府開発援助（ODA）による国際協力とともに、これまでに培ってきた技術で人をつなぎ、ASEAN地域に住む人々の暮らしに寄り添って経済発展に貢献し続ける。

（国際支店土木営業部営業グループ・橋川遼）